

甦る！古代吉備の国～謎の鬼ノ城～

史跡鬼城山城内確認調査
平成 23 年度発掘調査成果



C5 区全景（南西から）

C5 区

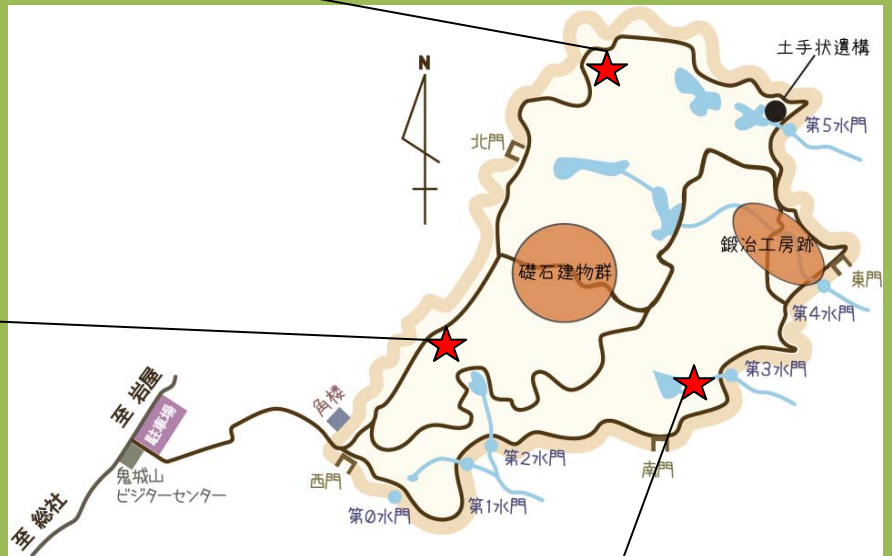
1. 北門の裏山の頂上。
2. 平安時代の土師器が出土。
3. 鬼ノ城が使われなくなった後は、山岳仏教の修行場として使われたと考えられます。



C5 区 集石遺構（南から）

A1-2 区

1. 平成 18 年度調査区の北隣を調査。
2. 斜面を切って平坦にした場所に、火処が集中して見つかる。
3. 柱穴の中からは転用硯を発見。
4. 土器が多く出土することから、生活の拠点だったと推測されます。



平成 23 年度調査区位置図



重なり合った火処（南から）



転用硯の見つかった柱穴（西から）

D 区

1. 第3水門の上流の土手状遺構を調査。土手状遺構の調査は昨年に続き城内で2例目。
2. 土手状遺構は残存高約 2.5m、幅約 6m、長さ 20m以上で、土手の前後両面には石垣を伴います。石垣は 30～40cm の石を積み上げ、その上に 1m もある巨石を乗せる独特の積み方をしています。



D 区全景（南東から）



土手状遺構前面石垣（南東から）